

プロジェクト・ワークのための Tips 集
しゅう

5

より良いプレゼンテーションの仕方
よ かた

プレゼンテーションをするとき、聞いている人は話す内容と同じくらい、発表者にも注目しています。立ち方やジェスチャー、表情、服装など、プレゼンテーションのときの発表者の態度全てが聞いている人へのメッセージになります。どんなにすばらしいプレゼンテーションでも、態度がふさわしくないものと、聞いている人はプレゼンテーションに良くない評価をするかもしれません。プレゼンテーションの前に、これからするプレゼンテーションにふさわしい態度はどんなものか考えて、練習しておきましょう。

1 下のイラストを見てどう思いますか。

プレゼンテーションの態度としてふさわしいでしょうか、ふさわしくないでしょうか。どうしてそう思いましたか。



上のイラストのような態度は、プレゼンテーションをする場所や相手、プレゼンテーションの内容によって、ふさわしいかどうかが変わります。大切なのは、場面に合ったふさわしい態度をとれるように、準備と練習をしておくことです。

- 視線：スクリプトやスライドの文字を読むために、聞いている人の方を見ないでプレゼンテーションをするのはあまり良い印象を与えません。
- 表情：プレゼンテーションの内容によってふさわしいものが変わります。明るい話題では笑顔が良いですが、深刻な話題で笑顔で話すのは不自然です。
- 服装：学会発表や仕事のプレゼンテーションであれば、フォーマルな服装がいいかもしれませんが、カジュアルな服装が許される場合もあります。帽子や頭につける装飾品などは、文化の違いもあるので、絶対につけてはいけないということもないでしょう。
- ジェスチャー：文化の違いがあります。日本に限って言えば、ポケットに手を入れたまま話す、腕を組んで話すというジェスチャーは、ふさわしくないとと思われることもあります。

2 より良いプレゼンテーションをするために、どのようなことに気をつけたいですか。